

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和元年度技術情報第3号（果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ））について  
（送付）

このことについて、今後の防除指導の参考にしてください。

---

### 令和元年度技術情報第3号

- 1 対象害虫** 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）
- 2 対象作物** カンキツ，ナシ，カキ
- 3 発生地域** 県本土
- 4 発生量** 多
- 5 情報の内容**

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）の予察灯誘殺虫数が大幅に増加している。また、餌植物（ヒノキ球果）での寄生虫数も多く、今後、餌植物（ヒノキ・スギ球果）への加害が進み、餌として不適になった場合、果樹園へ飛来し被害を及ぼす恐れがある。
- 6 情報の根拠**
  - 予察灯でのチャバネアオカメムシの誘殺虫数は、8月第4半旬頃から各地域で増加し、平年を上回っている（図1）。
  - 果樹カメムシ類の餌であるヒノキ球果で、チャバネアオカメムシ成虫の寄生虫数が平年と比べて多い（図2，表1）。
  - 8月19～21日（8月後期）の調査では、果樹カメムシ類の加害による餌の劣化を示す口針鞘数は、2.1～10.4本/果（平均5.4本/果）であった（表2）。
  - 本年の球果量指数は平年より高く、果樹カメムシ類が多発した平成24年と同等であった（図3）。なお、球果量が多い年は被害（発生面積率）も多い傾向にある。
  - 本年は、すでに出水市、霧島市で飛来を認める果樹園があり、一部ではカンキツへの加害も認められている。
- 7 防除上注意すべき事項**
  - 果樹カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるため、園内外をよく見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。特に、収穫期を迎えている極早生温州、ナシ、カキでは注意する。
  - 餌となるスギ・ヒノキの球果が、台風等で落果すると、果樹園へ飛来する場合があるので注意する。
  - 飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ミカンハダニの発生を助長する可能性があるため、散布後はハダニ類の発生に注意する。
  - 防除にあたっては、防除薬剤の使用回数や使用時期を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。

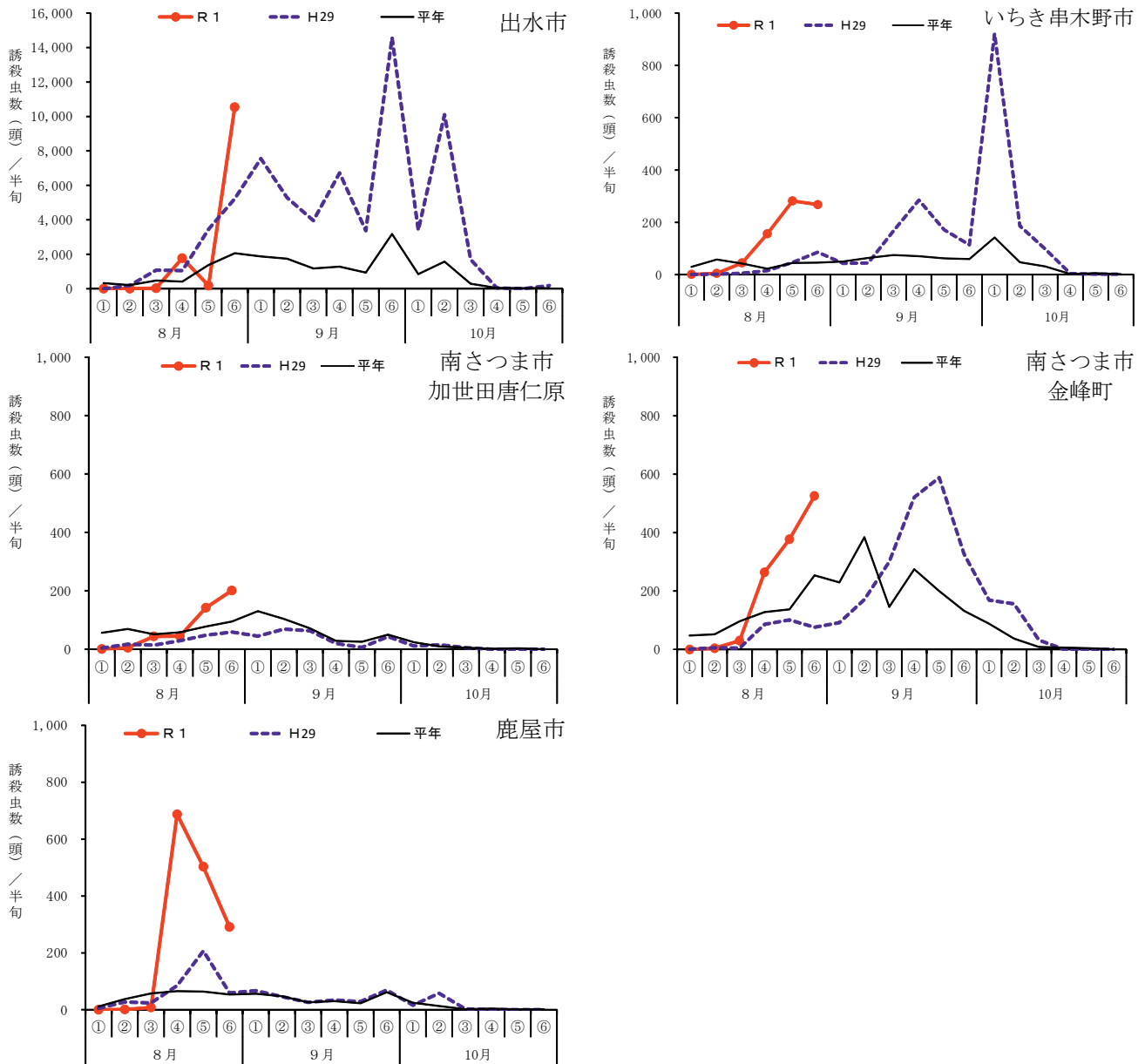


図1 予察灯でのチャバネアオカメムシ誘殺虫数の推移

注) 平年：南さつま市金峰町、鹿屋市：過去10年間、他は過去8年間の平均値。平成29年：直近で被害がみられた年。  
捕虫方法：南さつま市金峰町100w水銀灯、鹿屋市 捕虫用蛍光灯と白色蛍光灯（20W）を併設、他は40W捕虫灯

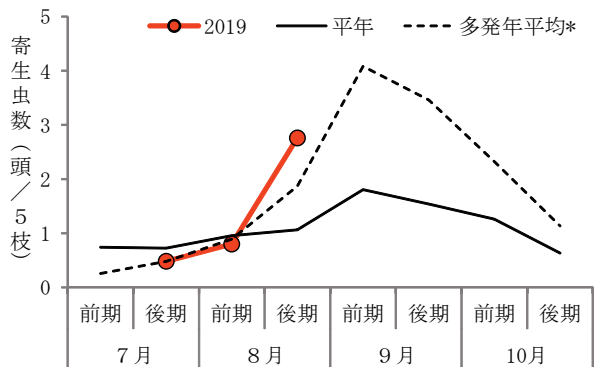


図2 チャバネアオカメムシ成虫寄生虫数の推移

注) 餌植物であるヒノキの寄生虫数を調査。1地点あたり5か所（昨年まで10か所）の調査ポイントを設定し、1か所あたり5枝の合計25枝（昨年まで50枝）でおこなった。また、表の単位を頭/5枝に変更した。

多発年平均は、注意報発表年の平成22年、24年、26年、29年の平均値。

表1 チャバネアオカメムシ成虫寄生虫数の地点別推移 (頭/5枝)

	7月		8月	
	後期	前期	後期	前期
いちき串木野市	1.0	0.6	3.2	
さつま町	0.2	0.2	2.4	
阿久根市	0.2	2.4	2.2	
出水市	1.0	0.4	6.0	
霧島市	0.0	0.4	0.0	
調査地点平均	0.5	0.8	2.8	

表2 ヒノキ球果の口針鞘数の地点別推移

	7月		8月	
	後期	前期	後期	前期
いちき串木野市	1.2	7.6	6.4	
さつま町	0.1	0.9	2.4	
阿久根市	0.5	8.9	5.9	
出水市	0.9	6.1	10.4	
霧島市	0.0	0.6	2.1	
調査地点平均	0.5	4.8	5.4	

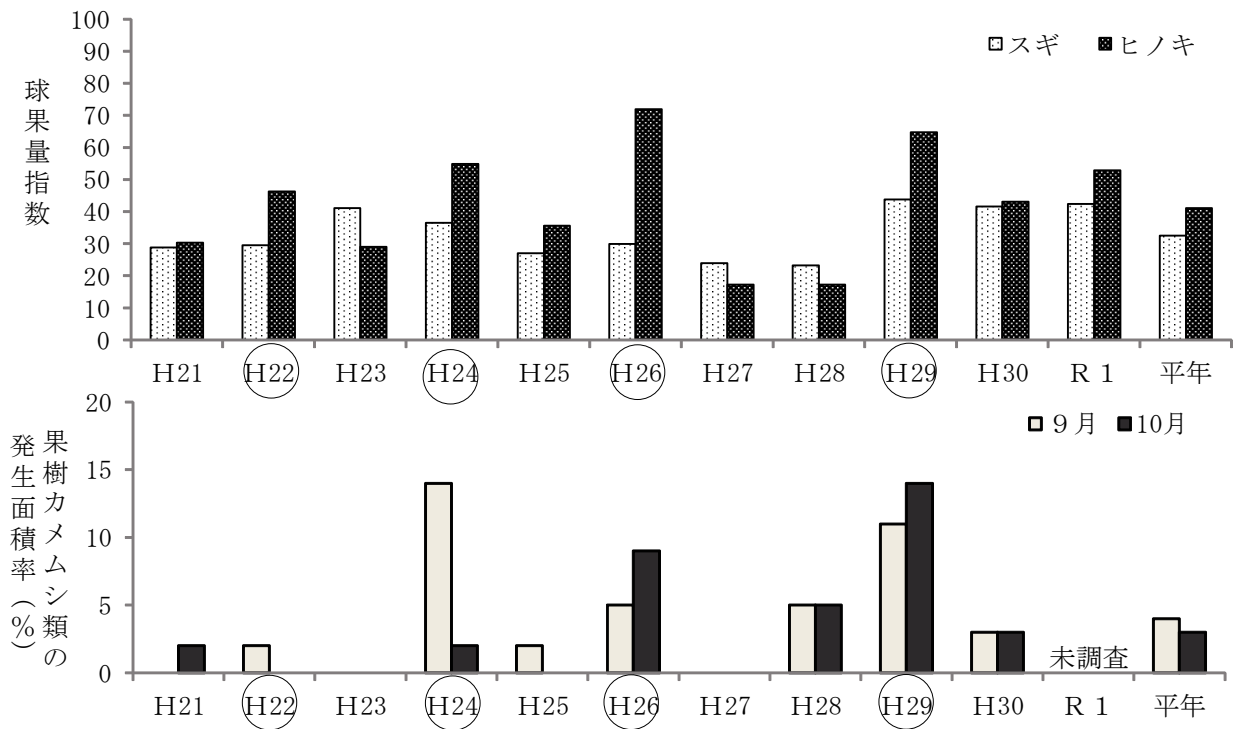


図3 6月のスギ・ヒノキの球果量指数(上)と、9～10月の果樹カメムシ類の発生面積率(下)

注) ○は、注意報の発表年

球果量指数は愛媛県(2018)による。球果量が多いと指数が高く、少ないと指数が低くなる

球果量は目視による達観調査、評価は7段階(極多,多,やや多,中,やや少,少,極少)

球果量指数:  $((\text{極多地点数} \times 7) + (\text{多地点数} \times 6) + (\text{やや多地点数} \times 5) + (\text{中地点数} \times 4) + (\text{やや少地点数} \times 3) + (\text{少地点数} \times 2) + (\text{極少地点数} \times 1)) / (\text{総地点数} \times 7) \times 100$ , 平年は、2009～2018年の10年間の平均。

果樹カメムシ類の発生面積率はカンキツでの巡回調査の結果。